



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2005.10

No. 258

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



黒い鳥ウォッチング—カワウとカラス—

小荷田行男（さいたま市）

はじめに

鳥見人に全く人気のない鳥の代表が、カワウとカラスという黒い鳥です。両種とも埼玉県でよく見かける鳥で、近年急激に増え、人との諍いを起こしています。本稿では、この両種のおもしろい生態が見られる場所と、観察上のポイントをご紹介します。

1. カワウ

1.1 カワウ・コロニーでの観察

コロニーでは、繁殖と埒（ねぐら）入りが見られます。県内における繁殖は3月からと9月からの年2回。2005年現在、繁殖地は次の2ヶ所です。

- ・ 武蔵丘陵森林公園の山田大沼（滑川町）
同公園中央口の北側、山田大沼上沼と下沼の間の橋上から、コロニーが観察できます。
- ・ 荒沢沼（上尾市と桶川市の境）
上尾市中分4丁目と桶川市薬師堂の間、江川流域の低地にあります。私有地ですので、立ち入れませんが、中分4丁目の道路や薬師堂の寺から、樹上に巣が見えます。

1.2 カワウ・コロニーでのトラブル

カワウのコロニーは、湖や沼に面した雑木林に造られますので、コロニー繁殖する水鳥に共通するトラブルを起こしています。

- ・ 樹木の衰弱や枯れ死。



カワウ（編集部）

- ・ 糞による悪臭。
- ・ 糞による湖や沼、地下水の富栄養化。
- ・ 騒音。
- ・ コロニー近くの河川や湖沼における淡水魚の減少。
- ・ 植生変化に伴う土砂流失や崖崩れ。等
コロニーに行かれた時、これらの点をチェックしてみたいかがでしょう！

1.3 カワウ埒（ねぐら）入りの観察

県内には、上述2ヶ所のコロニーの他、埒があります。日の入り2時間位前から、採餌地から帰還するカワウの埒入りが見られます。

- ・ 彩湖（さいたま市、戸田市）
- ・ 埼玉鴨場（越谷市）
- ・ 昭和池（久喜市）
- ・ 東武動物公園（宮代町）
- ・ 児玉カントリークラブ（児玉町）
- ・ 宮沢湖（飯能市）
- ・ 狭山湖（所沢市）

1.4 カワウ囲い込み漁の観察

渡良瀬遊水地谷中湖は、周辺4県に生息するカワウの餌場です。冬、1,000羽前後のカワウが集まります。

10羽から20羽のカワウが湖の一端に一列に並び、それに向かって20羽から30羽の別のカワウが魚を追い立てる、囲い込み漁が見られます。午前中、2回から3回の囲い込み漁が行われる時があります。河川や湖沼に生息する魚類の減少が気にかかります。

2. カラス類

2.1 カラス冬埒観察

12月から1月、県内各地ではカラスの冬埒が観察できます。冬晴れの夕方が良く、日の入り2時間前から日の入り位までが、埒入りの時間です。ハシブトガラスが主で、ハシボソガラスが混じります。冬埒となる雑木林を、周辺の道路から観察しましょう。

2.2 カラス罅入り前集合地の発見

カラスは罅入り前に、罅とは異なる場所に一時的に集まるケースが多く見られます。大きなガスタンクや高圧電線などが近くにあれば、罅入り前集合地の可能性があります。罅入り前集合地の発見も、興味ある観察ポイントです。

2.3 カラス冬罅でのトラブル

少なくとも500羽位、多いと5,000羽を超えるカラスが冬罅に集まります。近くに住宅地があると、様々なトラブルになります。

- ・日の出近く、罅立ちの騒音。
- ・罅の雑木林の糞。
- ・テレビアンテナの破損、電線のたるみ、屋根材破損など物的被害が発生。
- ・住民に対する心理的圧迫。

冬罅を見に行かれた時、このような事もチェックしてみたら、いかがでしょうか！

2.4 カラスの主な冬罅

2003/2004年冬、県みどり自然課の調査で、2,000羽以上の冬罅は6ヶ所ですが、規模が小さなものも含めると、冬罅と確認されたのは八高線以東の平野、丘陵地帯で、28ヶ所にのびます。

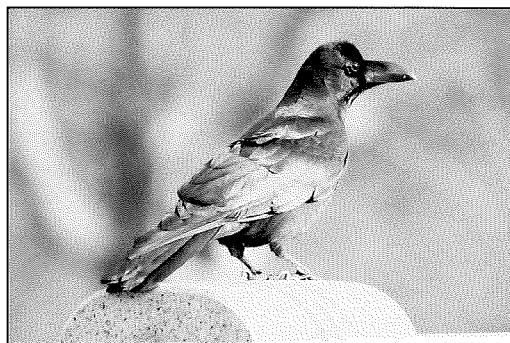
2,000羽以上の冬罅は、次の通りです。

- ・平林寺（新座市野火止）
県内最大5,500羽。市、市民団体が対策。
- ・松の平・たつみ平団地周辺の雑木林（吉見町）

2003/2004年冬は3,700羽を有する冬罅でした。2004年、地元住民と吉見町役場の協同で実施された、雑木林の管理、歩道の造成、林内の見回りなどの諸対策が功を奏し、2004/2005年冬は、1,000羽位へと減少しつつあります。

- ・大宮公園（さいたま市大宮区）
2,500羽を有する冬罅です。
- ・西新井ふるさとの緑の景観地（さいたま市西区）

2003/2004年冬は2,500羽。2004/2005年冬、隣接する高木の雑木林に移りましたが、



ハシブトガラス（古澤洋子）

2005/2006年冬は、もとの戻る可能性があります。

- ・狭山湖南岸（所沢市）
狭山湖を取り囲む水源林に2,500羽。
- ・久伊豆神社（越谷市）
神社の森に2,400羽。市民団体が調査。

2.5 カラス冬罅のこれから

多数のカラスが集まる大規模冬罅は、土地所有者、行政、住民の協同作業による対策が進行しつつあります。12月から1月にかけての冬罅は、罅となる雑木林の環境変化や、近隣の罅の状況に応じ、生成消滅を繰り返しています。

2.6 カラス冬罅観察のポイント

県内の平野、丘陵地帯では、各市区町村に1ヶ所の割合で、カラスの冬罅があります。お近くのカラスの冬罅を見つけて、

- ・冬罅として選ばれた理由。
- ・集まる範囲。
- ・冬罅の発生と消滅の時期。
- ・冬罅の経年変化。
- ・コクマルガラスやミヤマガラスが混じっていないか。
などを調べて見てはいかがでしょうか！

おわりに

カワウとカラスはいかがでしたか。身近な所に、鳥見のおもしろさが潜んでいることに気付いていただければ幸いです。

自然界から見れば、ヒトも、カワウやカラスと同じような、困った存在かも知れません。

No.254 号の続き

あの人の双眼鏡は…

①使用機種、②使用期間、③その機種にしたわけ、使い勝手、思い出等、④次に購入したい機種

長谷部謙二さん（川越市）

- ①ライカ 10×42
- ②6年
- ③見え味最高。視野が全面シャープ。買って正解。使いやすい。手になじむ。やっぱ、高くても重くてもライカはいい。
- ④スワロフスキー8×20B

森本國夫さん（熊谷市）

- ①ニコン 10×42
- ②10年以上
- ③もともとニコンの8×30 を使っていたが、知人の持っていたツァイスの7×42 の見やすさと使い勝手の良さに驚いて、絶対買おうと思った。しかし、乱視などで視力が低下して7倍ではどうかと迷っていた時に、タイミングよく発売された。値段も手ごろで倍率の少し高いニコンの 10×42 を買ってしまった。見え味には一応満足しているが、10倍を選んだことが本当によかったかどうか、今でもわからない。使い勝手は、ツァイスに及ばない。どうも国産の双眼鏡は、レンズの性能はともかく、設計者が双眼鏡の愛好者かどうか疑問に感じるような使い勝手のものが多いように感じる。

新井 浩さん（さいたま市）

- ①スワロフスキーSLC10×42WB
- ②4年
- ③友人がELを購入し、使用しなくなったのでそれを購入。ブランド名、高級クラス、防水を考えた。

橋口長和さん（春日部市）

- ①ツァイスコンクエスト 10×30BT*
- ②半年

③15年間愛用していたカートン8×30が、昨年10月17日の渡良瀬探鳥会の際に、バッグから出してみたら接眼レンズ部が割れ、本体から外れてしまっていた。修理不能ということで、コンクエスト 8×30 BT*を注文しようとしたが品切れ。入荷までは3ヶ月かかるとのことで、在庫の本機を購入した。倍率は気にならない。明るさ、軽さ、防水機能に満足している。

- ④スワロフスキーを使ってみたい。

小林みどりさん（神奈川県大和市）

- ①スワロフスキー EL 8,5×42
- ②3年
- ③明るくくっきりとよく見えるので、望遠鏡の出番が減った。

デビューは近所の公園での小学生相手のBW指導。おもちゃの双眼鏡しか持っていない彼らには、さぞかし輝いて見えたのだろう。「ちょっと見せてください」とかわいい声で頼まれるといやとは言えず…。「私も」「私も」と何人もの子供たちが群がり、返ってきたときはレンズに指紋がべたべたついてた…。まだ、カラスとヒヨドリしか見ていなかったのに…。

奄美大島探鳥旅行

小林昌夫

3月はじめ、奄美大島に行ってきました。ガイドさんの案内で3日間、大瀬海岸、奄美自然観察の森、金作原、マングローブの森、秋名田圃など回りました。

夜間の探鳥会でアマミヤマシギがのべ11羽出現、殆どが灯りに驚いて飛び出したものですが、2羽がゆっくり観察できました。ガイドの話では、普段は4～5羽くらいしか出てこないが11羽は新記録とのこと。

途中猫が横切ってびっくりしましたが、捨て猫が多く、マングースと共にヤマシギやアマミクロウサギを襲い、絶滅に拍車を掛けている由。

オオトラツグミの声らしきものは聞こえましたが不明。その代わり普通(?)のトラツグミが観察できました。

ズアカアオバト、ルリカケス、シロハラは数多く観察できましたが、スズメが居ないのは不思議でした。

1日目、2日目は、アカヒゲの鳴き声はよく聞こえましたが姿を見せてくれません。3日目、朝から雨で東屋で雨宿りをしながら観察していたところ、綺麗な♂が出てきて一同大興奮。

リュウキュウコノハズクはすぐそこで鳴いているのですが姿を見せてくれません。カラスバトは一瞬で、ガイドさん他2名しか見ていません。

いよいよ帰るころになってホテルの玄関前の石垣の下に、雨に濡れた黒っぽい鳥が現れ、ムクドリかと思ったのですが、ホッピングしているし、嘴や足は黄色ですが顔は白くない。ガイドさんも初めて見る鳥だというし、図鑑を見て我々の知識では分かりません。ホシムクドリ、ハッカチョウではないかとの意見も出ましたが、全員の宿題としてムクドリ SPとして記録しました。私としては5回目の奄美探鳥でしたが、今回が一番充実した探鳥でした。

出現鳥は下記の通りです。亜種もあります。がとりあえず、全部記入してみました。リ・ooはリュウキュウoo、オ・ooはオーストン・ooの略です。

カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ミサゴ、サシバ、チョウゲンボウ、バン、シロチドリ、イソシギ、アマミヤマシギ、カラスバト、リ・キジバト、ズアカアオバト、リ・コノハズク、カワセミ、オ・オオアカゲラ、アカハラ、シロハラ、リ・ウグイス、アマミシジュウカラ、オ・ヤマガラ、アマミコゲラ、リ・ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、リ・サンショウクイ、アマミヒヨドリ、アカヒゲ、ヒヨドリ、タゲリ、ルリビタキ、ミソサザイ、トラツグミ、リ・メジロ、ホオジロ、ルリカケス、クサシギ、ハチジョウツグミ、タヒバリ、センダイムシクイ、ツグミ、リ・ハシブトガラス、ムクドリ SP

(後日、同行した友人が、ムクドリ SP の具体

的な特徴などを書いて野鳥の会の権威F氏にお尋ねしたところ、「それはクロウタドリと思われる」との回答をいただきました。それならもう少しじっくり観察するのだったと地団太踏みましたが後の祭り)

柳生会長に会っちゃった！

町田好一郎（本庄市）

某月某日。

今日は何にも予定がない。夏休みを取り、独りでどこかに出かけちゃおう、と心に決め、行き先の決まらないまま、とりあえず閑越に乗った。

サービスエリアで一服しながら、行き先を熟慮。そうだ、柳生会長に会いに行こう！

下仁田で降り、R254をひたすら走り、R141から清里へ。そして会長が主宰するハケ岳倶楽部に到着。凄い賑わい、駐車場は満タン。

アイスコーヒーとビーフシチューを注文して、店内と林の中を散策。会長は気軽にスタッフの中に入っておられる。こちらスタッフにお願いし、男同士の2ショット。

カメラの電池切れのため、車に戻る。ダッシュボードのポケットから、ブルーの支部旗が顔を覗かせている。そうだ、これを持って会長と2ショットをと、再びレストランへ。スタッフに相談すると、「グッドアイデア！今すぐパパさんを探します」と、無線機で捜索。程なく会長お出まし、趣旨快諾で撮った写真がこれです。

図々しくも厚かましいリクエストに快く応えてくれたことに感謝し、「やることいっぱいある、頑張ろう」との会長の言葉に感激した一日でした。





野鳥情報

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇4月30日、子供の森でアカハラ、キビタキ、センダイムシクイ、エゾムシクイのさえずり。アオジ、シメ、ツグミなど（藤原寛治）。

さいたま市岩槻区平林寺 ◇4月30日昼過ぎ、ムナグロ43羽、コチドリ2羽、セグロセキレイ。5月1日早朝、ムナグロ68羽。5月2日早朝41羽。5月8日早朝約50羽。5月10日早朝約60羽。5月16日早朝15羽。キアシシギ2羽が田の1m位上空で激しく追いかけていた。（本多己秀）。

さいたま市岩槻区掛 ◇5月2日早朝ムナグロ20羽。コチドリ2羽、ヒバリ、コサギなど。5月4日早朝ムナグロ43羽、ウズラシギ1羽。5月5日早朝ムナグロ30羽。5月6日早朝ムナグロ36羽、トウネン夏羽1羽、タシギ1羽。5月8日早朝ムナグロ54羽。5月10日早朝ムナグロ約50羽が旋回し、南に消えたと思うとまた戻ってきて、これを3回繰り返す。ムナグロ60羽が田の奥からバツと飛び上がり、低く飛んで移動した。5月11日早朝、ムナグロ28羽。5月13日早朝70羽。5月16日早朝46羽（本多己秀）。

◇5月6日65羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区長宮 ◇5月7日、水田でムナグロ約20羽、タシギ2羽、イソシギ3羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇5月9日、「キョロンキョロン」とアカハラが鳴き、「チヨチヨビー」とセンダイムシクイも。カワセミが飛び、キビタキ2羽発見。5月12日、暗い木陰から「グルル…」とヒタキ類の声するも見つからず。トケン類が飛来。木の中に潜り、やがて毛虫をくわえて飛び去った。コムドリ4羽、エゾムシクイの声（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇5月1日早朝ムナグロ12羽、オオヨシキリ、アオサギ、ツグミなど。5月3日早朝ムナグロ9羽。午後1時には、52羽に増えていた。5月5

日早朝ムナグロ15羽、コサギ。5月9日早朝ムナグロ21羽。5月11日早朝8羽（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇5月1日早朝ムナグロ10羽、セッカ、オオヨシキリ、ゴイサギ、ダイサギ、アオサギ、コサギなど。5月3日早朝ムナグロ9羽、午後1時には、57羽に増えていた。5月4日早朝ムナグロ76羽、コサギ、チュウサギ、ダイサギなど。5月5日ムナグロ42羽、アマサギ2羽、チュウサギ3羽、キジ、セッカ、チョウゲンボウなど。5月7日早朝ムナグロ87羽、コチドリ1羽、イソシギ2羽、ツグミがまだいる。ムナグロとイソシギが採餌中のところに後からコチドリ1羽が降りてきて、2羽のイソシギを威嚇して追い飛ばした。5月8日早朝ムナグロ120羽。5月10日早朝ムナグロ101羽、4群に分かれていた。40羽位の群れの中にキアシシギ1羽、例年より半月遅い。コアジサシ2羽。5月11日早朝ムナグロ89羽、キアシシギ3羽、イソシギ1羽など（本多己秀）。

さいたま市見沼区上山口新田 ◇5月2日、水を張る最中でまだ土が出ている田にムナグロ31羽、ひろがって盛んに動き回っていた。そばにコチドリ2羽、ヒバリが近くから飛び立ちさえずり、すっかり夏鳥の世界が広がっている。芝川の蒲の若葉の中でカイツブリが、桜の木でハシボソガラスがそれぞれ子育て中。5月5日、午後4時頃、稲を植えたばかりの田んぼで、ムクドリが4羽揃って水浴び、家族風呂のよう。まだ水を引いていない田ではムナグロ19羽、タカブシギ1羽休んでいた。数羽は窪みに身を沈め、タカブシギは嘴を羽に隠して休んでいる。細い水路の縁にアマサギ1羽、傾いた日を背にして頭から胸に掛けて見事な亜麻色に染めていた（赤堀尚義）。

さいたま市見沼区大和田町 ◇5月9日、「ヒリリリリ、ヒリリリリ」とサンショウクイの声を聞く（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区深作 ◇5月11日、水田でムナグロ30羽+（鈴木紀雄）。

越谷市 ◇4月30日、三野宮県立大学の西側

田んぼでムナグロ20羽（ウダガワタケ）。

越谷市県民健康福祉村公園 ◇5月4日午後3時頃、周辺田んぼでムナグロ30羽、タシギ2羽（小菅靖）。

越谷市レイクタウン開発現場 ◇5月5日午前10時頃、コアジサシ、カルガモ、ヒバリ、ツグミ、セッカ、オオヨシキリ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ、アマサギ、アオサギ、ムナグロ、チュウシャクシギ（小菅靖）。

蓮田市蓮田 ◇5月2日、キョウジョシギ1羽、コチドリ1羽、ムナグロ1羽、コサギ、ダイサギ。5月4日早朝、ムナグロ7羽、チュウシャクシギ1羽、コサギ、チュウサギなど（本多己秀）。

蓮田市黒浜 ◇5月2日早朝ムナグロ12羽。5月4日早朝42羽、チュウサギ、ダイサギ、キジ♀1羽など。5月7日早朝、ムナグロ30羽（本多己秀）。◇5月6日、ムナグロ35羽。5月8日、約40羽。5月10日、約30羽。療養所内の杉が5～6本ある場所から「ギーギー、グイグイ、ホイホイ」の声、サンコウチョウ!! 姿探すも、時間無く見つからず。5月11日、療養所内でセンダイムシクイの声。水田でムナグロ15羽（鈴木紀雄）。

蓮田市笹山 ◇5月3日早朝ムナグロ44羽。5月4日早朝52羽。5月6日早朝アマサギ2羽、キジ♀1羽。5月7日早朝ムナグロ23羽、キジ♂1羽、コサギ2羽。5月8日早朝ムナグロ33羽。5月10日早朝26羽、別に20羽が黒浜上空を低く北上。別に25羽がいた。5月11日早朝9羽（本多己秀）。

庄和町水角 ◇5月9日、庄和町飯沼から松伏町魚沼にかけての水田地帯でムナグロ約80羽、チュウシャクシギ10羽、キアシシギ10羽、キョウジョシギ4羽（鈴木紀雄）。

北本市石戸宿 ◇4月30日、自然学習センターでオオヨシキリ2羽。ハチジョウツグミのさえずりを聞く。クロツグミのような声だが、少し音量がない。昨年5月3日にも同所で姿を見ている（立岩恒久）。

小川町鷹巣 ◇4月30日午前9時頃、池沼手前の林でキビタキ♂1羽。コルリのさえずりを数回聞く（鈴木敬）。

川本町本田 ◇4月30日正午頃、鹿島古墳公園でエゾムシクイ1羽、さえずりと姿を確認。数ヶ所で同様にセンダイムシクイ（鈴木敬）。

嵐山町みどりのトラスト三号地 ◇5月3日午前、千手院口付近でオオルリ♂1羽、盛んにさえずり、槻川兩岸の林を行き来した。塩沢冠水橋下流でオソドリ♂♀各1羽。草地への散策路脇でクロジ♂♀各1羽。湿地の対岸の林からエゾムシクイのさえずり。遠山口側の広葉樹林でキビタキ♂1羽（鈴木敬）。

寄居町中間平緑地公園 ◇5月5日午前7時～午後2時頃、展望台付近の杉の梢でさえずるクロツグミ♂1羽、地上にも度々出現。中央デッキ前でコサメビタキ1羽、小声ながら、こちらにも杉の梢でさえずる。入り口の東屋付近他数ヶ所でキビタキ♂1羽。ビンズイ、アカハラ、シロハラ。イカルとツツドリの声（鈴木敬）。

三芳町藤久保 ◇5月6日、頭と首が白く翼の部分はスズメという野鳥を発見。逃げ足が早くカメラを向けると逃げてしまう。又カメラを持っていない時に出没（カワセトシユキ）。

坂戸市西坂戸 ◇5月8日午後3時50分頃、自宅室内に居ると「ピューピュー」の鳴声。窓を開けて見るとアオゲラ♂1羽。川の石垣（コンクリート製）隙間の蟻の巣穴をつぶして、蟻を捕食していた（増尾隆）。

坂戸市浅羽ピオトープ ◇5月11日午前8時30分頃、ピオトープに沿って流れる高麗川の中洲にキアシシギ3羽。当地では初記録です（増尾隆、他8名）。

表紙の写真

キツツキ目キツツキ科アカゲラ属コゲラ

普通の種類の普通の写真ですけれども、なんとなく自分では気に入っています。

昨年10月16日（土）さいたま市桜区秋ヶ瀬公園、子供の森で撮影しました。

写真と文：蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



ジョウビタキ (久保田忠資)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章した担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月2日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:40発で「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野

見どころ：「秋」は、空がアキラカ(清明)であるからとか、収穫がア(飽)キ満チルから、あるいは草木の葉がアカ(赤)クなるからなどと言われています。稲穂の波の上を、赤とんぼが飛び交い、青空の下、サシバやヒヨドリが渡ります。「モズの高鳴き75日」。これは、やがて霜が降り、野鳥にとって試練の冬がくることを言い表したものです。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月2日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、浦和美園駅経由埼玉スタジアム行き8:31発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀

見どころ：秋風とともにノビタキやツツドリが通り過ぎる野辺は、渡りの交差点。気の早い冬鳥と渡り途中の鳥たちを探しましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：榎本(秀)、中里、後藤、大澤、和田、森本、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、飛田、新井(巖)

見どころ：渡りの途中のノビタキを探して明戸堰まで歩きます。ツツドリや、気の早いツグミも期待できるかも。

さいたま市・大久保農耕地探鳥会

期日：10月10日(月・祝)

集合：午前8時、JR浦和駅西口バスロータリー、集合後バスで現地(やっしまニュータウン)へ。

担当：福井、楠見、小林(み)、海老原、倉林、百瀬、渡辺(嘉)

見どころ：昨年はサギ6種の揃い踏みを期待していたのに雨降りでお流れ。今年も同じ期待にプラス、オオタカ、チョウゲンボウ、彩りを添えてノビタキも期待しましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月15日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局108号室
案内：浦和駅西口。県庁に向かう道左側を歩き出して間もなく、三菱信託銀行の角を左折。最初の信号を直進。工事現場の塀が途切れた所、右側茶色5階建てマンション1階、駅から徒歩約5分。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月16日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田
見どころ：いつも何かが出現します。芝川の工事で、景色が変わってきましたが、また新しい景色が現れます。その変化に期待しましょう。秋、見沼たんぼへどうぞ。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月16日(日)
集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場。
交通：東武日光線新越谷 7:11→春日部 7:25→栗橋 7:54→柳生 8:04 着。または JR 宇都宮線大宮 7:07→栗橋 7:41 着で、東武日光線乗り換え。
解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。
担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、中里
見どころ：そろそろ谷中湖にもカモ類が到着します。2年連続して湖の干し上げがあり、今シーズンの冬はどうなるのやら心配はつきませんが、冬鳥たちは確実に来てくれるでしょう。コースは谷中湖を回り、谷中村史跡の林で冬の小鳥たちも探します。気候もよいので、昼食持参でお出かけください。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月22日(土)～10月23日(日)
定員に達したので締め切りました。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月23日(日)
集合：午前9時30分、県立さきたま資料館前レストハウス。
交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫(佐間経由)行き8:52発で、「産業道路」下車、徒歩約15分。
担当：内藤、岡安、和田、立岩、石井(博)、栗原
見どころ：さきたま風土記の丘も整備が進み、変わってきました。けれども、10月期待の主役は、ジョウビタキ。変わりはありません。いつものところで出てくれるでしょうか。あとは何が出現するかお楽しみとして、高い青空の下、古墳のいただきに立って、秋の発見をしてみませんか。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月30日(日)
集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。
交通：JR川越線大宮8:36→川越で8:57発に乗り継ぎ。
担当：佐久間、長谷部、山本(真)、中村(祐)、池永、山本(義)、山田(義)、藤掛
見どころ：秋も日ごとに深まってきました。ジョウビタキをはじめ、鳥たちが北の国から渡ってきています。カワセミ、サギ、モズ、タカの仲間も、出てくれると思います。

秋ヶ瀬野鳥クラブ10周年記念写真展

期間：10月15日(土)～23日(日)
場所：さいたま市桜区
プラザウエストギャラリー
写真のうまい下手ではなく、こんな鳥が来ていることを広く紹介したいという工藤隆会長はじめ当支部会員多数の同クラブは、秋ヶ瀬公園ゴミ拾いなどの活動もしています。



行事報告

5月15日(日) 加須市 加須はなさき公園

参加: 31名 天気: 小雨後曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ キジ バンムナグロ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 5月に珍しい若葉寒にもかかわらず、一般の方が9名も参加してくれた。これは第1回埼玉県支部・加須はなさき公園共催探鳥会ということで、公園側が広報やポスターで呼びかけてくれたからであろう。小雨の中で始まった探鳥会であったが、途中から青空がのぞき、セッカやオオヨシキリの声に、そしてキジの姿に歓声が上がった。ここでは初めてのムナグロも観察でき、皆満足したようだった。

(長嶋宏之)

5月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 66名 天気: 曇後雨

カイツブリ コサギ カルガモ コガモ バンコチドリ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (18種) 代用水の小道を歩いて鳥見をした。シジュウカラの幼鳥なのか、桜の並木で鳴いている。途中から雨が降り出したので、芝川に沿って帰る。短時間であったが、オオヨシキリの合唱を堪能した雨の探鳥会である。(楠見邦博)

5月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11名

江浪功、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、杉原みつ江、原田譲、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫、百瀬修

5月21~22日(土~日) 長野県 戸隠・飯綱高原

参加: 15名 天気: 21日=晴、22日=曇

カイツブリ アオサギ カルガモ トビ タカsp.

キジ キジバト シュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス フクロウ アオゲラ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス キクイタダキ キビタキ オオルリ サメビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイスズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (53種) 今年は3月に雪が多かったためか、雪解けが遅くミズバショウも見ごろと鳥も花も期待大だった。天気も良好で、一の鳥居園地へ。芽吹きも遅くて例年よりも見やすい。まずはニュウナイスズメ、キビタキの声に誘われて、あちこちへうろうろ。早目に切り上げて植物園へ移動。ミズバショウ、カタクリ、キクザキイチゲ、エンレイソウ、ニリンソウなどが見ごろで、目の行き先も上へ下へと忙しい。キバシリは雛が巣立ったらしく、餌をねだる姿がほほえましかった。翌日は、夜明けのコーラス。オオジシギは最近出番が少ないが、今回もだめだった。代わりにフクロウが特別参加してくれた。早朝は鳥の動きも活発で、コルリはこの時間がやはり見やすい。朝食後も快調で、休養たっぷりの中里リーダーがノジコをスコープで捉えてくれた。その後もクロツグミなど堪能できた。(菱沼一充)

5月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ トビ キジ コチドリ イカルチドリ インシギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ キビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 今回は、5月下旬としてはめずらしい鳥が3種確認できた。まず入間川でマガモ、稲荷山公園でカケスとキビタキ。キビタキは初記録。姿は一部の人しか見られなかったけれど、さえずりはみんな楽しんでみることができた。いずれの鳥も時期が遅いようだが、探鳥会は2ヶ月に1回で、しかも

午前中の数時間。もしかしたら、この時期にも思ったより多くの鳥たちが移動しているのかもしれない。(長谷部謙二)

5月28日(土) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 44名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ キジ バン コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 天気予報を覆し、絶好の鳥見日和となった。ケヤキ、シラカシの新緑のトンネルを抜けてスタートした。池に出るとコアジサシがしきりに採餌のダイビング中。その様子をじっくり見ることができた。参加したT幹事によれば「カワセミに比べてコアジサシの採餌の成功率は低い」という。見ているとなる程なかなか魚をとることができない。さすが鋭い観察力だ。突然頭上をカッコウが鳴きながら飛んでいく。ちょうど見やすい電線に止まりじっとしている。胸の横斑がよく見える。皆でゆっくり観察することができた。橋の上に出ると、ヤマボウシが満開に咲き誇っている。その中で、キジが姿を現した。例の派手な衣装を披露してくれた。期待したコヨシキリが出なかったのは残念だったが、終始カッコウの声が聞こえるのんびり探鳥会だった。(中里裕一)

6月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 54名 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ キジバト ホトトギス カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ウグイス オオヨシキリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 天気が心配されたが、曇天となった。同一個体と思われるホトトギスの鳴き声があちこちで聞こえた。河原では幸運にも鳴きながら飛ぶ姿が見られた。笹藪で鳴くウグイスもじっくり観察できた。カワセミはチラリと姿を見かけたのみ。池にはコウホネが咲いていた。(岡安征也)

6月5日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 61名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ キジ コチドリ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 梅雨入り前の好天。民家園から久しぶりに南へ、芝川から見沼代用水西縁沿いを歩く。桜の大きさが日差しをさえぎり、オオヨシキリをじっくりと観察。背後からは、さわやかなカッコウの声を聞きながら、新しいコースで気分も爽快。(手塚正義)

6月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 39名 天気: 晴

カワウ ダイサギ カルガモ オオタカ コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) まさに梅雨の晴れ間。朝から陽射しは強烈で、気温はぐんぐん上がって行く。暑さのため、コースを短縮して早めに切り上げることにした。少ない鳥影をかき集めての22種。帰り道ではガビチョウも見る。

(榎本秀和)

6月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 14名

石井智、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、志村佐治、原田譲、檜山大介、檜山秀樹、藤掛保司、藤野富代、松村禎夫、百瀬修



ホシガラス (増尾 隆)



タシギ (小林ますみ)



● 県の関係の連絡先

怪我や病気の野鳥の手当てをしてくれるボランティア獣医さんの組織 (傷病野生鳥獣保護診療機関) について、狩猟に関して、あるいは、もしかしたら野鳥の不法飼育や密猟ではないかと思われる時の問い合わせ・連絡先は、

全県担当

みどり自然課野生生物担当 TEL048-830-3143
FAX048-830-4775 a3140@pref.saitama.lg.jp

地域担当

中央環境管理事務所 TEL048-822-5199 FAX04
8-822-5139 p225199@pref.saitama.lg.jp

西部環境管理事務所 TEL049-244-1250 FAX04
9-246-7885 r441250@pref.saitama.lg.jp

秩父環境管理事務所 TEL0494-23-1511 FAX04
94-23-6679 t231511@pref.saitama.lg.jp

北部環境管理事務所 TEL048-523-2800 FAX048
-526-3949 k232800@pref.saitama.lg.jp

東部環境管理事務所 TEL0480-34-4011 FAX048
0-34-4785 g344011@pref.saitama.lg.jp

それぞれの管轄地域など詳しいことは、県のホームページで確認できます。

● 普及活動

8月28日(日)坂戸市立大家公民館で開催された高麗川ふるさとの会主催高麗川塾講演会で、町田好一郎が「鳥たちの浴びの不思議」のテーマで講演しました。

北鴻巣まちづくり研究会バリアフリー班から、福祉マップさきたま緑道編作成について協力依頼があり、緑道で見られる野鳥について、内藤義雄が協力することになりました。

● 事務局の予定

10月1日(土) 編集部・普及部会議。
10月8日(土) 11月号校正(午後4時から)。
10月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
10月16日(日) 役員会。

● 会員数は

9月1日現在 2,358人。

活動報告

8月4日(火) 常務会関係会議、26日理事懇談会(海老原美夫)

8月13日(土) 9月号校正(海老原美夫・喜多峻次・佐久間博文・藤掛保司・山田義郎)。

8月21日(日) 役員会(司会: 田中幸男、各部の報告・探鳥会参加者名簿の個人情報取り扱い・その他)。

8月22日(月) 9月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

夏休みに孫を連れて日光湯元に出かけた。源泉の池に、カルガモの親子連れが、人なれして泳いでいた。さすが、観光地のカルガモと納得していると、林間学校の小学生たちが、「鳥が温泉に入ってる!」と大騒ぎ。引率の先生らしき人いわく、「これは大発見よ! しっかり見ておきなさい!」(内藤)

しらこぼと 2005年10月号(第258号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社